

資料 AGREE の評価項目

(対象と目的) 当該のガイドライン全体の目的、取り扱う臨床上的問題、その対象とする患者に関する事項

1. 目的の具体的な記載
2. 取り扱う問題の具体的な記載
3. 対象患者の具体的な記載

(利害関係者の参加) ガイドラインの利用者として想定した人々の意向をどの程度反映するものであるかに焦点を当てている

4. 専門家代表者の作成への参加
5. 患者の価値観や好みへの考慮
6. 利用者の明確な定義
7. 想定利用者による試行

(作成の厳格さ) エビデンスを集積し統合するのに用いられた手順・推奨を導き出す方法・改訂に関する事項

8. エビデンスの系統的な検索
9. エビデンスの選択基準の記載
10. 推奨決定方法の記載
11. 健康上の利益・副作用・リスクの考慮
12. 推奨とエビデンスの明確な対応関係
13. 公表前の外部審査
14. 改訂手続きの予定

(明確さと提示の方法) ガイドラインの言葉遣いや形式に関する事項

15. 推奨の具体性
16. 患者の状態に応じた選択肢の明示
17. 重要な推奨の明確さ
18. 利用ツールの用意

(適用可能性) ガイドラインを利用する際の、制度面・組織面・行動面・費用面への影響に関する事項

19. 推奨の適用による制度・組織上の障害の考慮
20. 推奨適用に伴う費用の考慮
21. モニタリング・監査の基準の提示

(編集の独立性) 推奨の独立性、もしくはガイドライン作成グループの利害の衝突について記載しているかどうかに関する事項

22. ガイドライン編集の独立性
23. 作成グループとの利害関係の記載

(全体評価)

(注意) 各項目について、4点:「強くあてはまる」～1点:「全くあてはまらない」、または「情報が無い」の4段階で評価する。全体評価は、「強く勧告する」、「勧告する(条件付きもしくは修正あり)」、「勧告しない」、「自信がない」の4段階で評価する。

診療ガイドラインとその評価

平成 16 年 2 月 7 日 長谷川(友)

資料 2 AGREE 評価票

評価者氏名： _____

評価対象ガイドライン名： 前立腺肥大症の診療ガイドライン

観点	項目	AGREE 得点	観点	項目	AGREE 得点
対象と目的	1. 目的の具体的な記載		明確さと提示の仕方	15. 推奨の具体性	
	2. 取り扱う問題の具体的な記載			16. 患者の状態に応じた選択肢の明示	
	3. 対象患者の具体的な記載			17. 重要な推奨の明確さ	
利害関係者の参加	4. 専門家代表者の作成への参加		適用可能性	18. 利用のツールが用意	
	5. 患者の価値観や好みへの考慮			19. 推奨の適用による制度・組織上の障害の考慮	
	6. 利用者の明確な定義			20. 推奨適用に伴う費用の考慮	
	7. 想定利用者による試行			21. モニタリング・監査の基準の提示	
作成の厳格さ	8. エビデンスの系統的な検索		編集の独立性	22. ガイドライン編集の独立性	
	9. エビデンスの選択基準の記載			23. 作成グループとの利害関係の記載	
	10. 推奨決定方法の記載		全 体 評 価		
	11. 健康上の利益・副作用・リスクの考慮		コメント：		
	12. 推奨とエビデンスの明確な対応関係				
	13. 公表前の外部審査				
	14. 改訂手続きの予定				

診療ガイドラインとその評価

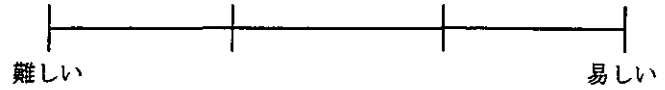
平成 16 年 2 月 7 日 長谷川(友)

*本日の「診療ガイドラインとその評価」研修会について、評価をお願い致します。

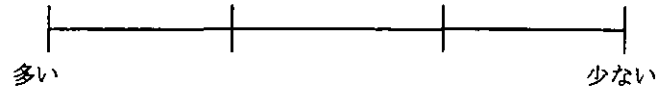
氏名： _____

1. この研修について

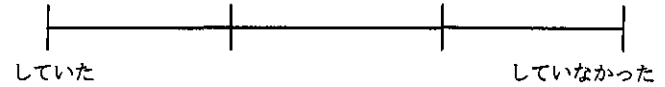
1) 難易度は



2) 内容量は



3) 講義内容は、あなたのニーズにマッチしていたか

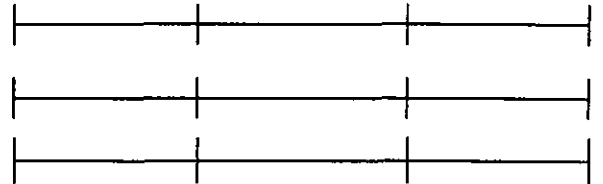


2. この講習の理解度について

1) 診療ガイドライン

できる | | | できない

構造を説明できる



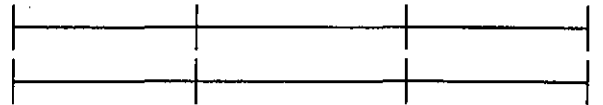
利用に必要な情報を列挙できる

利用条件を確認できる

2) 診療ガイドラインの評価

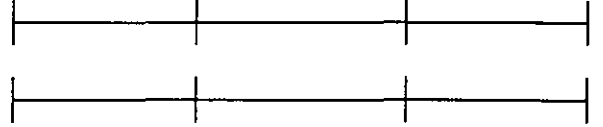
できる | | | できない

質の評価に必要な視点を 列挙できる



説明できる

診療ガイドラインを 批判的に吟味できる



実際の診療において
適切に利用することが
できる

3) AGREE 評価票の有用性

有用である | | | 有用でない

3. このセッションに対する総合評価

有用である | | | 有用でない

4. 貴方ご自身について

- 1) 年齢 () 歳
- 2) 性別 (男性 ・ 女性)
- 3) 現在の診療科目 () 科
- 4) 臨床経験年数 () 年

20031100

以降は、雑誌/図書等に掲載された論文となりますので、
下記の「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。

「研究成果の刊行に関する一覧表」

EBMに基づく前立腺肥大症診療ガイドライン.泌尿器科領域の治療標準化に関する研究班編, 34p, じほう, 2001

EBMに基づく尿失禁診療ガイドライン.泌尿器科領域の治療標準化に関する研究班編集, 102p, じほう, 2004

Clinical practice guideline for benign prostate hyperplasia in Japan

Yoshihiko Hirao, Yoshinari Ono, Momokazu Gotoh

Clinical guidelines in urological management, pp.47-61, Springer, 2003